

副学長インタビュー
研究室紹介
活躍する卒業生
先生おすすめの1冊

個性は、
いい顔から
生まれる。

個性が、人生を、世の中を、
少しずつ変えていく。



Special Interview

副学長に聞いてみた

笑顔が素敵な副学長に研究室の学生がインタビュー取材。
魅力的な人柄が伝わる楽しいエピソードが聞きました♪

Vol.01 Interviewee Profile

副学長

情報・AI・データサイエンス学科

鹿児島県

曾於市(岩川)出身

山田猛矢 教授

大学時代は物理学を専攻。博士後期課程を中途退学し、第一工業大学の講師として採用。その後、再び博士後期課程へ社会人入学し「博士(工学)」を取得。現在、第一工科大学で副学長、教務部長、学生部長、入試部長、広報部長、副情報センター長を兼任。将棋 アマ初段(日本将棋連盟公認)



——なぜ、大学の教員になる
うと思っただのですか？

大学の教員になるうと思っ
たことはありませんが、中学
校の卒業文集に将来の夢は
ノーベル賞受賞と書いていま
した。研究への憧れがあっ
たのかも知れませんが。大
学へ進学し、一応ドクター
(博士後期課程)までは進み
ましたが、博士を取るとい
うよりも研究を続けたいと
考えていました。当時の指
導教官と将来について話し
ているときに「教員に向い
ている」と言われたんです。
元々教えるのは好きで、ドク
ターのときにも4年生にゼ
ミや講義をやっていました。
し。今も働いている感覚はな
く学生の延長で進んでいると
ころもあるかも知れません。

——物理学に興味を持った
きっかけは何ですか？

中高生の頃、宇宙や太陽系の
話から、どんどん小さくなっ
ていって原子の構造を見た

きに「スケールが違うけど、
全部が同じ構造なんだな」み
たいなのは感じていました。
あとは山の中で育って身の周
りに自然しかなかったから、
自ずと自然に興味を持ってい
きました。当時から自然現象
を不思議に感じていました。
予備校時代の物理の先生が
「数学よりも自然現象を解明
していく物理の方が楽しいん
じゃないか」と言ってくれた
のも物理学を選ぶきっかけの
ひとつになりました。



Takeshi Yamada



どこまで力が出せるか、全力でやって試してみしてほしい



— Takeshi Yamada



—— 学生時代の失敗から学んだことはありますか？

大学に入学して、少し勉強を疎かにしていた期間がありました。その後、いざ勉強しようとしたときに頭が全然動か

なくなっていました…。そのときの自分に戻るのが怖くて、意図的に（常時）脳が動いていない状態にしてあります。

—— 将棋も脳を働かせるためにされているんですか？

将棋は好きだからやっています。小学校の頃にブームがあつて、そこからは対戦相手がいいたら指していました。高校生るときゲーム機でやって以来しばらくやっていなかったのですが、3年程前に知り合った人にネットで対戦できることを教わったのをきっかけに再びハマりました。研究発表のときに、いきなり質問がきても10秒将棋（一手を10秒未満で指す対戦方法）をやっていたおかげで、頭の中にあらゆる答えが出てきて、その中で最善（の選択）を選ぶことができました。

—— 最後に、学生に伝えたい

アドバイスをお願いします！

どこまで力が出せるか、全力

でやって試してみしてほしいです。何かを全力でやってみると、ミスしても面白いエピソードが出てくる。そういうのはすごく大事だなと思っています。そういえば、鹿児島から福岡まで自転車で行復したときのことを思い出しました。当時の彼女に自転車を借りて行ったんだけど、意外にきつくて、「帰り自転車置いて帰ってきていい？」と電話したら怒られました（笑）。肉体的にも精神的にも追い込まれたときに弱い自分がいるから、そういう部分を鍛えていけないといけないと思いますね。弱い自分が出てこないように鍛えようがないから。そういう意味でフルマラソンも、5・6回走りました。これ、意外と手軽に弱い自分を出せるんです。何かトラブルが起きたとき、感情的になっても解決するわけではなから、冷静な判断ができるようになります。

ABOUT 山田研究室（情報・AI・データサイエンス学科）

山田研究室では、AI・データサイエンスを軸に多岐にわたる研究に取り組んでいます。現在の研究のメインテーマは継続認証*です。パソコンのキー操作やマウス操作、スマホのタッチ操作などの行動的特徴に着目し、動的バイオメトリクスによる継続認証の実現に向けて研究を進めています。また、建築、土木、医療など他分野との共同研究も積極的に行っています。データ解析やAIの実装、システム開発、アプリ開発など本研究室が持つ知識・技術を他分野にも展開し、様々な課題解決に貢献しています。

* ログイン時の一度きりの認証ではなく、ログイン後も継続して認証し続ける認証



Labo. Visit

建築デザイン学科

副田研究室

建築デザイン学科の副田研究室に密着！
 研究室の学生のみなさんに
 「建築デザイン学科を志した理由」
 を聞いてみました。

研究室の紹介



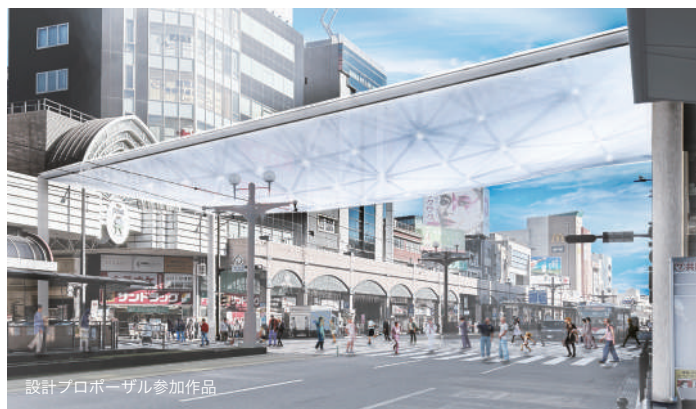
副田研究室は、建築デザインを専門とし、建築設計・研究活動を行っています。これから建てる建築空間の設計や、既に建っている建築作品の分析を両輪に、より良い空間デザインを探求しています。この研究室では、ローカルとグローバル、リアルとデジタル、ローテクとハイテクを複眼的に捉えたクリティカルなデザインがテーマです。特に、空間がどのように見えるか、という視覚的な部分に焦点を当てています。これまで言葉でしか表現できなかった空間での体験を、ARやVR技術を使って、数値やデータとして捉える新しいアプローチを探求しています。空間の見え方について工学的に探究することは、今後ますます多様化し、高齢化する日本社会において、必要不可欠なアプローチであると考えています。

建築デザイン学科を志した理由はなんですか？

有村輝紀 住宅のデザインや間取りをYouTubeでよく見ていて、建築について興味を持ちました。そして、建築について深く知りたいと思い、この学科に入学しました。将来は住宅業界に就職して、この大学で学んだことを活かし、魅力ある住宅を設計していきたいと考えています。

末吉玲 私は、中学生のころにテレビ番組で建築家の存在を知りました。その際に、建築家は建築やその空間といった「もの」だけでなく、そこでの暮らしや体験といった「こと」を創ることを知り、感銘を受けました。私も建築を通して、人々を幸せにしたいと考え、建築を志しました。

田中俊弥 小さい頃から自分の理想の家を考えて描くことが好きで、建築に興味を持ち始めました。高校生の時に偶然、ルイス・バラガンのヒラルディ邸を見て美しい色彩や光の使い方に魅了され、自



設計プロポーザル参加作品



活躍する卒業生

プロゲーマー 喜納宇宙

東京上野キャンパス
情報電子システム工学科卒



JeSU 認定スト 5CE プロライセンス所持者。
2022年6月3日に開催された「ストリートファイターリーグ: Pro-JP 2022 トライアウト大会 名古屋 OJA BODY STAR #1」において準優勝した実績により、カプコンより JeSU ヘプロライセンス発行の推薦が行われ、同月に JeSU (日本 e スポーツ連合) 認定スト 5CE 部門プロライセンスが発行されました。

どうして第一工科大学に入学したのですか？

パソコン操作が好きで、将来、ウェブ制作などにも関わりたいと思い、この大学を志望しました。学費も安かったですし、ゲームが好きだったこともあって、沖縄から東京に来るともっといい環境でゲームができると思いました。

ゲームはどこで練習していましたか？

以前はオフ会場で一緒に練習していました。コロナがあり対面での練習ができなくなったため、自分の家だけで練習することが多くなりました。大学の試験よりも大会を優先し、学業をおろそかにしてしまっただけです。

卒業した現在はどんな目標がありますか？

現在は、IT系会社に就職し、プログラミングチームにも所属しています。今後は、大学で学んだITとゲームを、もっと高いレベルで両立させることが目標です。

分も建築を深く学び、このような空間をデザインしたいと思いました。

西坂祐摩 私が建築を志したきっかけは、高校2年生の頃に修学旅行で行った京都の金閣寺や清水寺、鎌倉の街並みを見たからです。そこで、大学で建築を学び、清水寺のようなその都市のシンボルになるような建築を設計できる建築士になりたいと思い第一工科大学の建築デザイン学科に入学しました。



橋本佳林 街を歩く時、建物を見て素敵だと思った理由や美しくないと思った理由を自然と考えていることに気づき、自分が建築に興味

味を持っていると発見しました。建築の中で一番好きなことは、頭でどんな空間を作りたいか考えながら描き、模型を作り、さらに良いものを作るためにそれを繰り返すことです。

吉田慶祐 私が建築を志した理由は、子供の頃に工作やお絵かきが好きで遊んでいたこと、学校の授業では図工や美術に興味があったからです。また、建築を学ぶ前から特徴がある空間に興味がありました。好きなことなので学んで

いても飽きることがないと感じ、自分にあっていると思っています。

六田和宏 当たり前とは何か。私は、高校受験のときに建築という進路を選択しました。なぜそのような選択をしたか、それは当たり前であり、最も未知な物だからです。衣・食・住と生活に欠かせない3要素の中で最も重要であり、色々なものに関わりこれほど奥深いものはないと考え、建築という道を選びました。

先生おすすめの1冊



①砂時計の七不思議 ～粉粒体の動力学～

②田口 義弘 ③中央公論新社 1995年

④私が学生の頃に読んで衝撃を受けた本です。ある物体の運動を数式で表すことだけが物理学とは思っていませんか？この本では、粉粒体（小さすぎない粒：「砂」みたいなもの）が集まって現れる現象が説明されており、中でも砂時計の砂の流れと満員電車の人の流れは同じ？重いのには浮かぶ？など、直感を裏切る面白い振る舞いが紹介されています。「地球と月の関係」と「地球とリンゴの関係」のように、全く異なるように見えるものが実は似ていることに気づかされ、物理学の本当の面白さを味わうことができます。物理学が好きな人だけでなく、そうでない人にもオススメの一冊で、工学にも役立つこと間違いなし！ぜひご覧あれ。

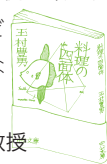


⑤共通教育センター 福永 知哉 教授

①料理の四面体

②玉村 豊雄 ③中央公論新社 2010年

④アルジェリアの青年がアルミ鍋を使って羊肉のシチューをつくるシーンから始まる本書には、50を超える世界各地の料理が登場します。その中には、鹿児島に暮らす人にはおなじみの「とんこつ」も。そして、一見何の関係もなさそうなこれらの料理から思いがけない共通点が見いだされ、ついには全ての料理が「四面体」で表現されてしまいます。ローストビーフとアジの干物って、実は仲間。では、とんこつは一体何の仲間？？食べ物がテーマのエッセイとしても十二分に楽しめますが、実体験を通じて事例を集め、じっくり観察して分析し、自分なりの理解にたどり着くというプロセスが実はとても楽しいことなのだと思わせてくれる一冊です。



⑤環境エンジニアリング学科 本田 泰寛 教授

①博士の愛した数式

②小川 洋子 ③新潮社 2003年

④私がこの本に出会ったきっかけは、高校生のころに受けた模試でした。その模試の問題文として登場した僅かな文章に惹かれ、帰り道に書店に立ち寄り購入したのを覚えています。内容としては、記憶が80分しか継続しない数学者の「博士」、博士の元で働く家政婦の「私」、そしてその息子の「ルート」との交流が描かれています。素数、友愛数、完全数、そして数学における最も美しい定理とも呼ばれるオイラーの等式など様々な数学に関する知識を、他者との交流の手段として、ときに朗々と、ときに弱々しく語る博士の口ぶりは数学が苦手な人にこそ読んでほしいと思います。映画化もされているので、読書が苦手な方はぜひそちらから入ってみてください。



⑤機械システム工学科 武田 隆宏 准教授

①たそがれ清兵衛

②藤沢 周平 ③新潮文庫 1991年

④20年ほど前「たそがれ清兵衛」と言う映画が公開され、それまで時代劇など見たことがなかったのですがグイグイと引き込まれて見た記憶があります。当時、これを見て涙を流すお父さんがたくさんいたとのことで、私もその例にもれませんでした。その原作がこちらの短編集になります。一見くたびれてた平侍の清兵衛ですが、その内に秘めた剣術で命がけの藩命を果たす。藤沢周平さんの淡々とした、なんとも言えない郷愁をただよわせる文体で、爽快かつ人間の暖かさを感じさせてくれる時代小説です。勉強や部活など疲れたときの気分転換にでもいかがですか？ちょっと違った世界を楽しめるかもしれません。



⑤航空工学科 山本 淳二 教授

①逝きし世の面影 ②渡辺 京二 ③平凡社 2005年

④皆さんは江戸時代にどのようなイメージを持っていますか？鎖国によって世界から取り残され、華やかな大名のもと多くの農民が苦しい生活を強いられていた印象が強いです。一方で近年の歴史研究では、江戸時代の日本では独自の文化や技術が発展し、当時世界最大人口の衛生都市であった江戸など、世界に類を見ない国であったことが知られています。「逝きし世の面影」は、幕末日本を訪れた「西洋人の目に映った日本」のありのままの姿が綴られた本です。文化の違い・時代の違い、視点が変われば見えるものが大きく異なることがよくわかる内容です。既存の価値観からの脱却が新しいモノヤコトを生み出す。理系の皆さんにこそ読んでもらいたい一冊です。



⑤環境エンジニアリング学科 寺村 淳 准教授

第一工大の先生方に、学生のみなさんに読んでほしいオススの一冊を選んで頂きました。

①今日の芸術 ②岡本 太郎 ③光文社 1954年

④芸術の意味、「それは一言でいってしまえば、失われた人間の全体性を奪回しようという情熱の噴出とっていいでしょう。現代の人間の不幸、空虚、疎外、すべてのマイナスが、このポイントにおいて逆にエネルギーとなってふきだすのです。力、才能の問題ではない。(中略)失われた自分を回復するためのもっとも純粋で、猛烈な営み。自分は全人間である、ということ、象徴的に自分の姿の上にあらわす。そこに今日の芸術の役割があるのです。」作者が語るのは現代社会における「生き方」と「生きにくさ」、その処方箋としての「芸術」です。およそ70年前の「今日」が決して「遠い昔」にならず、ますます我々の生きる現実に近付いているように感じられる今、決して色褪せない名著だと思います。



⑤建築デザイン学科 徳永 健至 准教授

①ものの見方が変わる座右の寓話

②戸田 智弘

③ディスカヴァー・トゥエンティワン 2017年

④私が紹介するオススの一冊は、「ものの見方が変わる座右の寓話」です。紹介するにあたり、1、最近(今年)読んだもの、2、読みやすく面白い!老若男女問わずお薦めできそうなもの、3、敢えて私の所属学科に関連する航空やパイロットの専門分野と関係のないものから選んでみました。たまたま書店の前を歩いていた時に何となく目に入り最初は興味本位で読んでみたところ、様々な寓話が持つ教訓から、新しい発見や気付きをもらい、自分の解釈、ものの見方を改めて考えさせられた気がします。ものの見方が広がり、皆さんの価値観、先入観をいま一度考えてみるきっかけとなり、今後の人生のためのヒントが見つかるのではないかと思います。

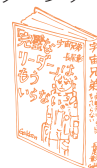


⑤航空工学科 島藤 力 教授

①宇宙兄弟「完璧なリーダー」は、もういない。

②長尾 彰 ③学研プラス 2018年

④「リーダーになりたくない!」、「リーダーの資質は自分にはない」と思っている人は多いですね。そのような人は、「俺の後ろをついてこい!」というカリスマ型リーダーを想像していませんか。しかし、変化のスピードが激しい現在、カリスマ型リーダーが多くの人をけん引するよりも、個人もしくは少人数のチームが自己責任を負いながら世の中に山積している課題を解決することが必要です。つまり、全ての人にリーダーシップを発揮することが求められています。この本は、アニメ『宇宙兄弟』に登場するシーンやセリフを用いて、自らの強みを活かしながらリーダーシップを発揮する方法や、理想のチームビルディングを指南してくれます。



⑤情報・AI・データサイエンス学科

三宅 由美子 教授

①陰翳礼賛

②谷崎 潤一郎 ③日本評論社 1933年

④文豪の谷崎潤一郎が今から90年前に書いた、日本人の美意識に関する随筆です。日本は亜熱帯に位置しており、夏の暑さ、特に湿気には耐えたいものがあるため、建築様式は庇を大きく跳ねだして太陽光をなるべく遮るような造りが発達し、その結果内部空間に深い陰翳を生じさせました。私達が、「日本の美」と感じる仏像や漆器などの工芸品は、そうした陰翳の中での蠟燭の灯りや、障子を通した仄かな光をベースにしている、といった美意識と風土が密接に関連していることを教えてくれる名著です。谷崎がこの文章を書いた90年前でさへ谷崎は、「最近の内部は明るすぎる」と苦言を呈しています。谷崎が現代の日本にいたら何と言うのか、興味深い所です。



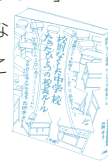
⑤建築デザイン学科 堀口 譲司 教授

①校則なくした中学校

たったひとつの校長ルール

②西郷 孝彦 ③小学館 2019年

④あなたが卒業した中学校はどんな学校でしたか?本書は、制服を着なくていい、宿題も定期テストもない(小テストはある)、スマホの持ち込みもOKな、そんな「公立」中学校を現実に作り上げた校長先生が書いた本です。本書で登場する中学校のように、日本の学校も多くの可能性を秘めているのです。歴史をふり返り、日本を、そして、世界を見渡せば、あなたが「学校ではそれが当たり前」と思っていることも、実は「当たり前」ではないことがたくさんあります。西郷校長は生徒たちに「世界を変えなさい」と言い続けたそうです。ぜひ、本書を読んで、あなたが抱いている「学校」のイメージを変えるところから始めましょう。



⑤共通教育センター 萩原 和孝 講師



Photogenic Spot

学生みなさんが撮影した鹿児島の写真をご紹介！
新たな魅力が見えてくるかも？

▶種子島

修学旅行で行きました。
友達との思い出など、当時の出来事が思い浮かぶ一枚です。

川田原 蓮



▼湧水町・吉松駅

朝のまだ薄暗い景色と、
夕方帰ってきたときの二つの景色が見られて、とても気に入っています。

福崎 風斗



▲錦江湾と桜島

朝に散歩をすると、新鮮な空気と目の前に広がる錦江湾が、とても爽やかな気持ちにしてくれます。

廣川 智美

◀大崎町停留・轟の滝

階段と橋の更に奥にある滝。
木々の間からもその存在感が際立っており、魅力を感じました。

濱田 慎

令和6年度(2024年度)入試試験要項

航空工学部、工学部

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験地
一般選抜	前期	併願 1月15日(月)～ 2月9日(金)必着	2月17日(土)	3月1日(金)	3月11日(月)	霧島、東京上野、 宮崎、福岡、那覇
	後期	併願 2月19日(月)～ 3月7日(木)必着	3月13日(水)	3月19日(火)	3月28日(木)	霧島、東京上野
大学入学共通 テスト(利用)	1期	併願 1月15日(月)～ 2月9日(金)必着	本学独自の試験 は実施しない	3月1日(金)	3月11日(月)	
	2期	併願 2月19日(月)～ 3月7日(木)必着	本学独自の試験 は実施しない	3月19日(火)	3月28日(木)	
	3期	併願 3月11日(月)～ 3月21日(木)必着	本学独自の試験 は実施しない	3月26日(火)	3月28日(木)	



変わることを恐れない。
第一工科大学

鹿児島キャンパス

〒899-4395 鹿児島県霧島市国分中央 1-10-2
Tel.0995-45-0640 0120-580-640
<https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp>
(入試情報局) nyushi@daiichi-koudai.ac.jp



東京上野キャンパス

〒110-0005 東京都台東区上野 7-7-4
Tel.03-3847-1391 0120-353-178
<https://ueno.daiichi-koudai.ac.jp>
(入試情報局) ao@ueno.daiichi-koudai.ac.jp



Embrace Change!

Ditto [ディット] 2023 Vol.01

◎ 企画・取材 /

坂元 健太、有園 海咲、小野 将人、小池 達輝、清水 央麻、
徳重 佑翔、原園 賢太、上原 康輔、有村 輝紀、末吉 玲、
田中 俊弥、西坂 祐摩、橋本 佳林、吉田 慶祐、六田 和宏

◎ 編集 / 時 裕美子 (Design Office Archimeta)

◎ 撮影 / 六車 剛裕